

1. 第7回荒瀬ダム撤去フォローアップ専門委員会における意見等一覧

(1) ダム下流への土砂移動の影響について

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
河床変動解析による計算結果の活かし方	議事録 P.10 ~11	藤田委員	それなりに有意な河床変化が生じるという計算結果を踏まえて、今後生じる可能性のある 1500~3000m ³ /L 規模の出水について、現地調査結果で検証して精度を確認し、次の計算に活かせればと思う。	各横断形状、特にダム直下流の 19k000 と 19k600 の 2 測線については出水後毎に調査を進めながら、その結果とシミュレーション結果との比較、必要であれば、新たなその後の出水を想定したシミュレーション等も検討し、速報として情報をお知らせしていきたい。	-
みお筋部撤去後の出水時の土砂移動の影響	議事録 P.11	柏井委員	本体を撤去すると、出水時の非常に土砂が動く時に水位が下がるという事になり、ここは一つのポイントになると思う。また、堆砂の方も80万 m ³ くらい残っているという状況であり、今後大きな変動が出る可能性があるため、モニタリング等についてぜひ注意深くやっていただきたい。		
みお筋部の撤去方法	議事録 P.12 ~13	森委員	みお筋部撤去について慎重に対応していただきたい。事務局の方でみお筋部の水の付き方について、既にイメージみたいなものはあるか。	詳細については検討中であり、実際の施工が 12 月以降になると思われる。次回の委員会を 10 月末に予定しているので、詳細な計画を立てた後に再度ご説明させていただきたい。	【説明資料 P.3 を参照】 みお筋部の撤去工法について検討・整理した。
仮設盛土の影響	議事録 P.12	柏井委員	仮設盛土をそのまま流すのは、少しやりすぎと思うので、丁寧な施工をお願いしたい。	仮設土が出水時にどのように流れていくかというのは非常に重要な視点だと思うので、本年度の出水の状況についても、もう少し詳細に、対応については予測を持って進めていきたい。	-

(2) 濁度と SS の相関式について

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
濁度と SS の相関式	議事録 P.10 ~11	藤田委員	必ずしも両者の関係を直線で近似する必要はない。また、この関係に影響するファクターも色々あるようなので、固定的に考えずに実現象を反映させた形で、ある程度幅を持たせて引き続き分析してほしい。	SS と濁度との相関式は、今後データを揃えながら精度を上げていく。	-
	議事録 P.11	篠原委員長	補足すると SS が低い場合、SS と濁度の相関が落ちることがある。例えば、植物プランクトンの場合、重量が軽いために濁度に比べて SS が低くなることがあるので注意する。		

(3) 汚濁防止膜の効果について

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
汚濁防止膜の効果	議事録 P.13	森委員	汚濁防止膜は機能しているか。下流への濁水の影響はあるか。	自動計による工事中の濁度観測グラフが示すように、汚濁防止膜等の対策あるいは諸々の環境対策により、環境基準以下で推移している状況で、非常に効果は出ていると感じている。	-
濁水処理施設の稼働メカニズム	議事録 P.14	篠原委員長	濁水処理として水処理施設があるが、この稼働はどのようになっているか。濁水が出た時にパイプで圧送して取り出しているのか。	閉切りの中でコンクリート破壊を行っているが、小さく砕いたコンクリートが水に浸ると、アルカリ性が非常に強くなる。そこで、閉切りの水を一度処理施設まで汲み上げ、処理施設を通して中性化してまた河川の方に戻している。	

(4) 路側補強箇所の緑化について

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
法面の緑化方法	議事録 P.13	森委員	他の地域では外来種などに関して議論されている事例もあるので、法面緑化について検討いただきたい。	一部ヤナギの枝を植えるなど、すぐ法面を押さえる工法的に何が必要なのか状況を見ながら、河川管理者と協議して対応策について進めたい。 また、対応については、委員の方にご相談しながら進めたい。	【説明資料 P.4を参照】 現地調査結果をもとに、法面緑化の考え方について検討・整理した。
	議事録 P.14	藤田委員	土を盛っても流されてしまうような厳しい水環境ではないかと思う。前後に植物があるからと言って単純に覆土して保つかどうか併せて、保てないという判断があるのならば、少し流されにくい構造と合わせ技にするとか、ちょっと工夫が必要ではないかと感じたので、適宜検討いただければと思う。		
	議事録 P.15	佐藤委員	今回の事業では植生の再生は基本的に自然に任せるという事で来ている。その中でこの部分が唯一、人的に植生をすることなので、考え方を説明できるようにしておいた方が良い。 今、仰ったような考え方で良いと思うが、ヤナギ以外に面を押さえる方法、また、植栽種についてどうするのか、途中で情報をいただきたい。		

(5) ダム直下流の冬季の粒径変化について

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
蛇行部における冬季の粒径変化の分析	議事録 P.15 ~16	藤田委員	平成 25 年 12 月から 26 年 3 月の非出水期で大きな出水は起こっていないと思うが、19k000 は強い湾曲の内岸なので水の流の癖からすれば、ここに土砂が溜まると思うが、どのような理由でこの冬場に砂だけが覆ったのか分析されているか。 小さな変化ではあるが、今後のダム撤去の影響把握に向けてのトレーニングとして、この分析を大切にしたらよいと思う。	仮設土の土砂が小さな出水等を受けて、下流に流れていっているというような事を想定しているが、今後もう少し詳細な調査を進めながら、今年度の出水においての変化とも比較しながら検討を加えたい。	-

(6) 支川合流部のモニタリングについて

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
支川合流部のモニタリング	議事録 P.16 ~17	森委員	本川に支川が入るとい取付き部分、ここの変化(土砂堆積と落差)を、ぜひ継続的に取っていただきたい。	支川の変化というのは横断だけでは表現できない部分があるので、航空写真や支川部毎の写真撮影も参考にしながら、今後とも調査を進めて参りたい。	-

(7) 西鎌瀬の河床変動について

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
西鎌瀬の河床変動	議事録 P.16~17	森委員	西鎌瀬の河床変動について、もう少し詳しく説明いただきたい。	出水によって河床が上下している。すなわち、出水により、上流から流れてくる土砂、河床のから流れ出していく土砂、その平均的なところで河床が形成されていっていると考えている。 今後、周辺の河床の変動等を比較しながら、特異な点があるのかどうか、通常の上流の比較あるいはダム下流の河床の変動との比較を行う等、整理していきたい。	-

(8) 生物相以外の特性に着目した分析について

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
水生昆虫類のハビタット別の整理方法	議事録 P.16 ~17	森委員	ハビタット毎の生息状況に関する情報も有るとより良いのではないか。	調査結果の解釈の仕方、整理の仕方あるいは調査方法について、委員の方とも今後ご相談させていただきながら検討を進めていきたい。	【説明資料 P.5~6を参照】ハビタットや多様性のとりまとめ方法について検討・整理した。
魚類の生物量に着目した整理方法	議事録 P.16 ~17	森委員	ただ単に魚類相という事だけで変化を見るのではなく、生物量(個体数やバイオマス)の形でも表現した資料を併せて作ってほしい。		
バイオインデックス	議事録 P.18	篠原委員長	バイオインデックスという考え方で種類と量を一緒にあわせる。これを使って表現すると、生態系の多様性の変化が理解しやすい。ただし、バイオインデックスはデータが集まらないとできないので、少しデータが集まった段階でやるのが良い。		

(9) アユの詳細な生息状況について

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
アユの詳細な生息状況	議事録 P.18 ~19	川野委員	球磨川というアユなので、アユがどうなったのかなというのが一番興味のある点である。アユの餌場、個体数や大きさ等、アユを時々大きく扱っていただければありがたい。	下代瀬でのアユの産卵場や餌場の調査、アユの胃内容物の調査などを実施中である。調査結果データがある程度揃った段階で報告させていただきたい。	-

(10) 希少貝類の調査について

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
ウスイロオカチグサ	議事録 P.19	西野委員	昨年度に引き続き今年度も調査をして頂きたい。ただし、移植先 2 箇所うちの 1 箇所がまだ実際について居るかどうか不明である。再生産とかという観点がかかりしていないので、ここら辺りを今後とも見ていくとよい。	-	-
ミズゴマツボ	議事録 P.19	西野委員	上流から流れ着いた可能性もあるが、基本的には百済木川の方で本体の川の方では無いという事である。また、熊本では御船川に続いて内陸では 2 番目の例でもあるため、これも今後引き続き見ていく必要がある。	-	-

(11) 県民への情報発信について

項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
県民への情報発信	議事録 P.20 ~21	森委員	先週土曜日 5 月 24 日に fish Migration DAY2014 ということでオランダのグループ達が全世界に発信をして、河川の連続性と魚類の移動ということで国際的に活動を募った。その中で日本からの代表として球磨川が発信されて、球磨川を歩くというような事が行われた。このように地元でそれなりに盛り上がっているようなので、今後この事業の県民向けの発信ということについて、一段落した辺りで何か県民に向けたシンポジウムとか、何かそのような事をご検討いただければと思う。	全国初のコンクリートダムの撤去という事で進めており、県民ならびに国民への情報発信は非常に重要だというように認識している。シンポジウム等、どのような時期にどのような内容で進められるか、検討に入りたいと思っている。	-